

岡山県の地震

令和6年(2024年)7月

目 次

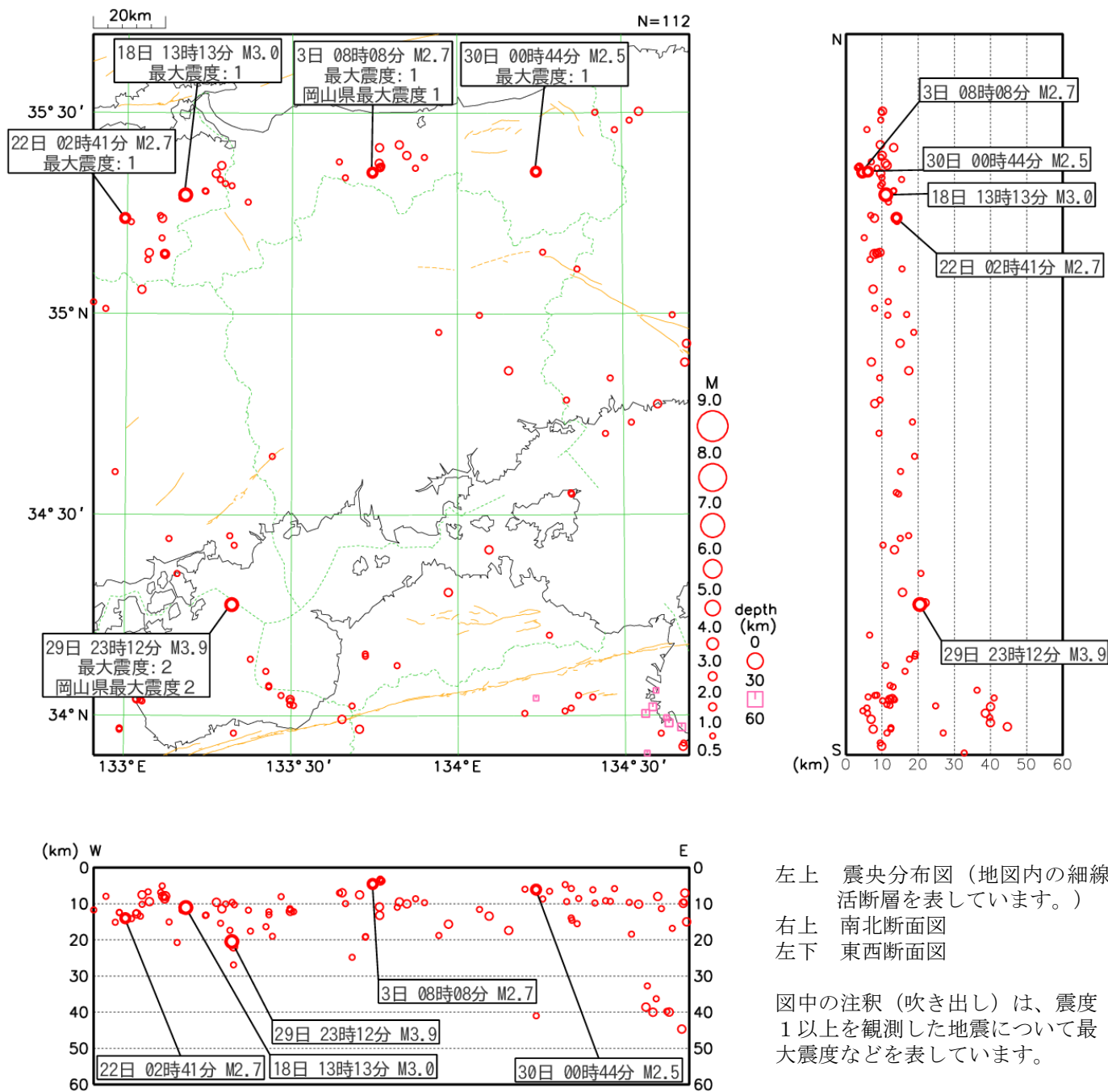
○岡山県及びその周辺の地震活動（7月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 3
○地震防災メモ No.223	
南海トラフ地震臨時情報 ～運用開始以来、初めて発表～	… 4

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
 - この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
 - 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。
- また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

岡山県及びその周辺の地震活動(7月)

震央分布図及び断面図



概況

7月の概況

- ・ 7月に震度 1 以上の揺れが観測された、上図の範囲内の地震は 5 回 (前月: 1 回) でした。
- ・ 岡山県で震度 1 以上の揺れが観測された地震は 7 月中は 2 回 (前月: 2 回) あり、そのうち震央が上図の範囲内の地震は 2 回、範囲外の地震は 0 回でした。

岡山県において震度1以上を観測した地震の表(7月)

2024年07月03日08時08分	鳥取県中部	35° 21.1' N 133° 44.5' E	5km	M2.7
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 1: 真庭市禾津*, 真庭市蒜山下和*			

2024年07月29日23時12分	瀬戸内海中部	34° 16.5' N 133° 19.2' E	20km	M3.9
----- 地点震度 -----				
岡山県	震度 2: 里庄町里見*			
	震度 1: 真庭市禾津*, 倉敷市新田, 倉敷市沖*, 倉敷市下津井*, 倉敷市白楽町*, 倉敷市真備町*, 倉敷市児島小川町*, 倉敷市水島北幸町*, 倉敷市玉島阿賀崎*, 倉敷市船穂町*, 玉野市田井*, 笠岡市殿川*, 笠岡市笠岡*, 井原市井原町*, 井原市芳井町*, 総社市地頭片山*, 総社市清音軽部*, 高梁市備中町*, 備前市東片上*, 和気町矢田*, 早島町前潟*, 矢掛町矢掛*, 瀬戸内市邑久町*, 瀬戸内市長船町*, 浅口市天草公園, 浅口市寄島町*, 浅口市鴨方町*, 浅口市金光町*, 岡山北区御津金川*, 岡山北区建部町*, 岡山中区浜*, 岡山南区片岡*, 岡山南区浦安南町*			

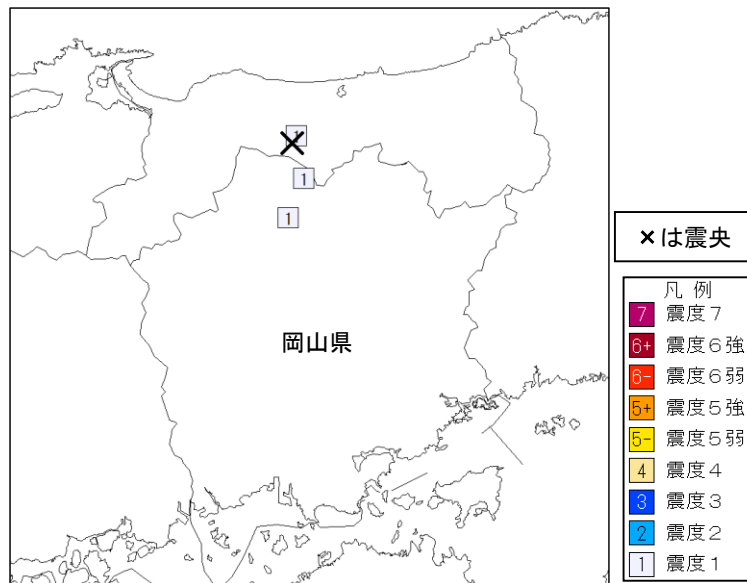
注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報（カタログ編）』に掲載されます。

2 地名に*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(7月)

2024年7月3日08時08分 鳥取県中部の地震

岡山県及び周辺観測点の震度分布



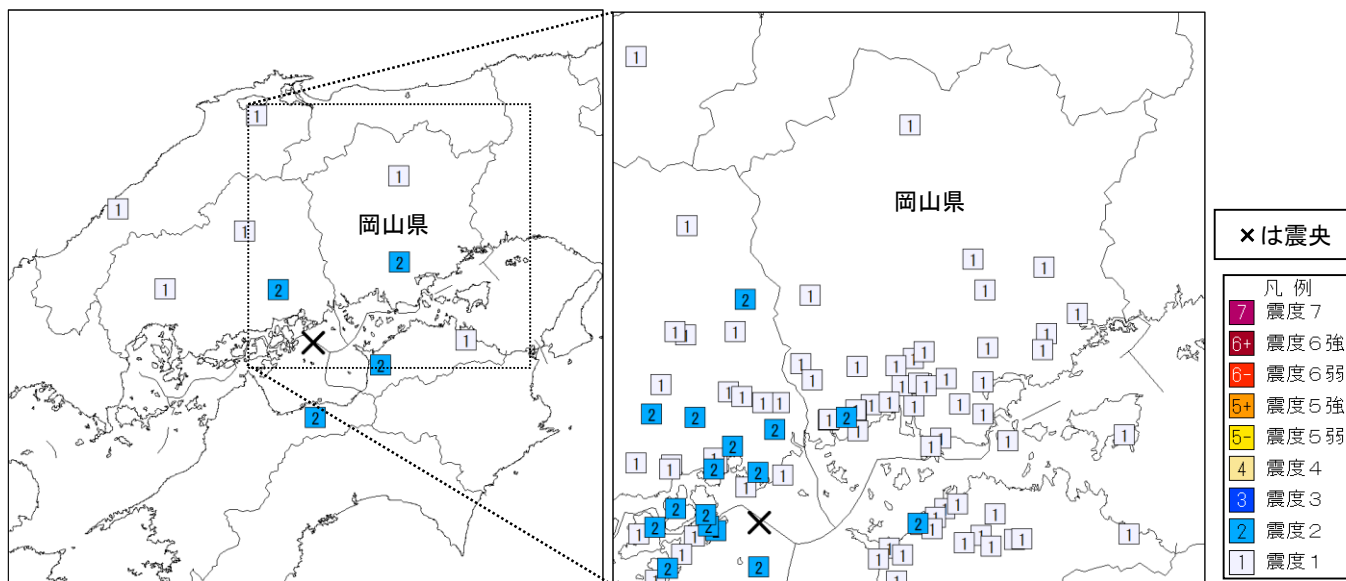
<地震の概要>

3日08時08分 鳥取県中部の地震（深さ5 km、M2.7）により、岡山県真庭市、鳥取県倉吉市で震度1を観測しました。

2024年7月29日23時12分 瀬戸内海中部の地震

各地域の震度分布

岡山県及び周辺観測点の震度分布



<地震の概要>

29日23時12分 瀬戸内海中部の地震（深さ20km、M3.9）により、岡山県里庄町、広島県三原市・尾道市・福山市・神石高原町、香川県観音寺市・多度津町、愛媛県今治市・上島町で震度2を観測したほか、岡山県、島根県、広島県、香川県、愛媛県で震度1を観測しました。岡山県では、真庭市、倉敷市、玉野市などで震度1を観測しました。

南海トラフ地震臨時情報 ～運用開始以来、初めて発表～

令和6年8月8日16時43分頃に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生しました。この地震の発生に伴い、南海トラフ地震の想定震源域では、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられることから、気象庁は同日19時15分に「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」を発表するとともに、防災上の留意事項や今後の見通し等についての報道発表を行いました(右図)。

この情報は、2017年11月に「南海トラフ地震に関連する情報(臨時)」として運用を開始(2019年5月に「南海トラフ地震臨時情報」に名称等を変更)以来、初めての発表となります。

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)を発表

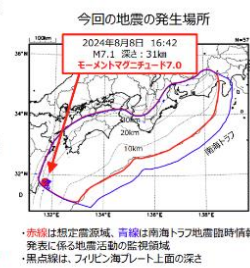
南海トラフ地震の想定震源域では、**新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて相対的に高まっていると考えられます**

今後、もし大規模地震が発生すると、**強い揺れや高い津波を生じると考えられます**

※新たな大規模地震が発生する可能性は平常時と比べると高まっていますが、特定の期間中に大規模地震が必ず発生することをお知らせするものではありません

政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとってください

※モーメントマグニチュードは、震源断層のずれの規模を精査して得られるもので、地震発生直後に地震波の最大振幅から計算し津波警報等や地震情報の発表に用いるマグニチュードとは異なります。



8月8日報道発表資料抜粋(全文は以下URL参照)

https://www.jma.go.jp/jma/press/2408/08e/NT_202408081945sv.pdf

南海トラフ地震臨時情報とは>

この情報は、南海トラフ沿いで異常な現象が観測された場合や、地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に気象庁が発表する情報です。

情報の大まかな流れとしては、気象庁は地震等の異常な現象を観測した後、5～30分後に南海トラフ地震臨時情報(調査中)を発表し、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」(以下「評価検討会」という。)を開催する旨をお知らせします。その後、評価検討会の調査結果を受けて「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」等、情報名の後にキーワード(巨大地震警戒、巨大地震注意、調査終了のいずれか)が付記された形で情報を発表します。

防災対応について>

政府や自治体などからの呼びかけ等に応じた防災対応をとることになります。例えば、今回のようにキーワードが「巨大地震注意」の場合には、通常の生活を送りながら、日頃からの地震への備えを再確認するなど、防災意識を一段高めましょう。

○南海トラフ地震臨時情報の流れと防災対応が分かるリーフレットです。

「南海トラフ地震 -その時の備え-」

URL: <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/nteq/index.html>

○南海トラフ地震臨時情報を正しく理解していただけるよう、マンガで分かりやすく解説しています。ぜひご覧ください。

「マンガで解説! 南海トラフ地震その日が来たら…」

URL: https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/pdf/manga_west_01.pdf

